

平成28年度

創立37年



安積三小 学校だより

三しょうの丘
(承認 賞賛 奨励)

平成28年7月8日
安積第三小学校

忘れかけていた子どもの涙

7月3日の日曜日、全国小学生陸上競技交流大会福島県選考会が福島市で行われました。大会への出場権を得た本校の14名の子ども達の素晴らしい活躍でした。

J B ボール投げに参加したAさん。競技を終えて席に戻ってきました。祝福の言葉を贈ろうと待っていたのですが、そこにあったのは全く違う顔でした。今にも泣きそうな顔、そして、その後、しばらく泣きじゃくっていました。失敗した時の涙ではありません。東北大会出場という次の目標があった

ただけによほど悔しかったのでしょうか。私は、こみあげてくるものをおさえて、Aさんの涙に精一杯の拍手を心からおくりしました。

100m走に出場したB君。最後の力をふりしぼってゴールするB君の姿に良い条件のもとで走らせてあげたかったとつくづく思いました。前日サッカーの試合を3試合こなし、また、小雨が降る悪コンディションの中での競技となってしまいました。今までの成績やB君の実力からして、決勝進出は間違いないと思っていました。しかし、当日は、いつものような伸びがなく残念ながら決勝進出はできませんでした。B君は、自分の競技が終わっているのにもかかわらず、最後まで競技場に残留して笑顔で他の子ども達を応援していました。

曾野綾子さんは、「絶望からの出発」の中で、長男がレギュラーになれず、「チクショウ、チクショウ」といいながらも勝者をほめ称えていることを書いています。そして、スポーツによりサリとした心を身につけ、受験にもくじけない耐性を育てることになったと述べています。

スポーツには勝敗はつきものですが、勝敗ばかりに目が向いてしまうと一番大事なものが、育てなければならないものが見えなくなってしまうからです。AさんやB君の姿はそのことを教えてくれたような気がします。



経営の神様とよばれた松下幸之助さんは、よくこういう意味のことを口にしたと言われている。「人生で成功して社会的な評価を得るのに、学問は関係ない。要は幼稚園で習ったことを、どこまできちんとできるかにかかっている。そういう人こそ、人の世で、何ごとかを成し遂げることができるのだ」

ご存知のように、松下さんは小学校しか出ていません。それでも丁稚奉公から身を起こして、巨大な電器産業王国を築きあげました。そういう方の言葉だから妙に重みがあります。

幼稚園で習うことといえば、○名前を呼ばれたらきちんと返事をする ○人にあったら挨拶をすること ○物を使ったらきちんと後片づけをすること ○遊び道具の順番を守ること・・・こんな単純なことばかりです。しかし、ここには人として守るべき基本的なことがほとんど含まれているのです。ここが守れる人は、将来円滑な社会生活を営むことができるというわけです。

人としての基本を子ども達に教える場合には、やはり形から教えたほうがいいと思います。心が大切なのは言うまでもありませんが、その心がどこに宿るかということやはり入れ物である形です。形を追求していけば、やがてそこに本物の心が宿っていくということです。今のこの柔らかい感性の小学生のこの時期に身につけてほしいと願います。

おとせばこわれる茶碗

おとせば こわれる 茶碗
おとせば こわれる いのち
いますぐにでも こわれるいのち
でも

それだからこそ

この茶碗のいのちが 尊い

それだからこそ

この わたしのいのちが いとしい

たまたなく いとしい

こわれずに いま あることが

ただごとでなく うれしい

プラスチックのいのちでないことが
ただごとでなく ありがたい

東井義雄より